



休日OK ほかごOK 授業OK

2025年
9月発行

ちがくきょうどう通信

こんにちは。令和7年度「ちがくきょうどう通信」です！各校で導入が進むコミュニティ・スクールですが、「小さく始めて、大きく育てる」意識のもと、取組が進んでいます。学校や家庭、地域が子どもたちのために連携・協働することで、その成長を継続して支え、やがて地域の活性化にもつながっていきます。市教委としても、学校と地域の連携強化のため、CSと地学協働のかかわりを説明しているところですが、今号では、改めてその「地学協働」についてご紹介します！



そもそも「地学協働」「地学協」って何??

正式には「地域学校協働活動」といい、地域住民、保護者、学生やNPO等立場の異なる人々が、「子どもたちのため」という1つの目的に向かって、「地域学校協働活動推進員」を中心に、それぞれの立場で出来ることを行い、作り上げる活動やイベントのことをいいます。具体的にはウラ面へ！



「地域学校協働活動推進員」って？

地域住民等の中から学校と地域の橋渡し役として活動する方を、社会教育法により、教育委員会が委嘱します。法律に基づく明確な立場で、地域学校協働活動の全体的なコーディネートをしています。 ex.活動の企画・運営、外部関係者等との連絡調整 等



具体的には・・・？

「学校や地域を理解し、応援してくれる人」を学校長から推薦していただきます。

例えば、元教職員、学運協委員、現・元PTA、学びのサポーター、スクールガード、子ども会、青少年育成委員等様々ですが、新たに探すより「元々」あったつながりから始まっている実施校が多いです。



市教委は何をしてくれるの？

『地域学校協働活動推進事業』として、

活動に必要な費用(消耗品費、講師謝金等)を、「学校予算配分」にてお支払いします。

⇒活動費上限200,000円(活動20時間分相当:1時間1万円にて積算)

※推進員への謝金は市教委から直接ご本人へお支払いします。

(上限210,000円:1校あたり150時間相当 1,400円/h)

・申請の準備

- ①活動の主体となる「地域学校協働本部」を作る(規約不要)⇒1校、複数校、パートナー校区でも可
- ②「地域学校協働活動推進員」の準備(複数人でも可)
- ③学校事務職員との調整(配分予算の執行をお願いするため)

・申請方法

「推進員推薦書」「申請書兼運営計画書」「予算書」3点の提出のみで開始できます！



どんな活動をしているんだろう・・・⇒裏面で事例をご紹介します！



手稲西小学校区地域連携協議会 (手稲西小)

走り方教室 ～自分の選んだ作戦でスピードアップ～



手稲西小学校は、令和6年度のCS導入と同時に、地学協働を開始しました。

地域学校協働活動推進員は1名で、同校の元校長であることに加え、現在は相談支援パートナーや学校運営協議会委員として長く学校や児童に関わっている方が従事しています。

ご紹介する活動は、5～6年生の「走り方教室」。全3回実施され、学校近隣のリハビリテーション病院のサポートを受け、子どもたちが自らの走り方や準備運動を改善していき、その前後でのタイムの伸びに注目する形式でした。

元々、令和6年度の学運協にて、同校の体力テストの結果低下について学校より報告があった際、委員の1人である病院職員(手稲西中元PTA会長)から提案があり、学校や推進員を交え病院と調整を行った結果、体育の授業との連携による活動が実現しました。

当日はほとんどの子どもたちのタイムが伸び、それまでの努力が表れた結果となりました。最後にはタイムの伸びがよかった順に表彰を行い、地域の方含め皆でお祝いしていました。

今回の活動は、学運協での話し合いをきっかけに学校と地域が協力した、「CSと地学協働の連携」による地域の力を生かした素晴らしい取組となりました。



東川下子ども未来応援団 (東川下小)

防災キャンプ

東川下小学校は、今年度のCS導入と同時に、地学協働を開始しました。

地域学校協働活動推進員は1名で、校区の町内会長や同校の評議員、学校運営協議会委員を務めており、地域での信頼が厚いことに加え、日頃から学校とつながりのある方になります。

ご紹介する活動は、放課後の「防災キャンプ」。学校のポンプ室での水汲み体験や段ボールベッド体験等の防災学習を行った後、校舎全体を舞台としたオリエンテーリングを実施し、防災にまつわるクイズを中心とした謎解きが行われました。その後は校舎屋上で同日開催の豊平川花火大会を見学し、親と一緒にグラウンドにテントを張って就寝、翌日はラジオ体操や非常食体験を行って解散と、てんこ盛りの内容となっていました。

コロナ禍で薄れてしまった地域のつながりを復活させたい思いから、学校やPTA、町内会が1つとなって協力し、子どもを中心としつつ地域の大人も楽しめるような活動として練り上げられたものであると感じました。推進員を中心に当日の運営人員の確保や活動の周知に尽力したこともあり、参加人数はなんと300名を超えたとのことでした。今回のような活動が、今後地域に根付いていくことを願っています。

本事業に関する詳細は、事業ハンドブックに掲載(市HPにもあります)しています！オモテ面で紹介した申請書類と一緒に共有ドライブに格納していますので、ぜひご覧ください！

今年度まだ予算余ってます！「今やってるこの活動って地学協働にできるかな？」疑問に思うことがあれば遠慮なくご連絡ください！

⇒格納先は[こちら](#)！

共有ドライブ「001教育委員会－学校間共有」からも入れます！

